

使徒 しと

目 め じる し

ふだん生活 せいかつ しているとき、目 め じるしがたくさんあります。まわりに、どんな目 め じるしがあるか かんが 考えて、つぎの空白 くわくはく に書 か いてください。

使徒 しと

イエスさまの使徒 しと については、使徒言行録 しとげんこうろく ではつきりと使徒 しと の条件 じょうけん が次 つぎ のように書 か れています。

『主 しゅ イエスがわたしたちと共 とも に生活 せいかつ されていた間 あいだ、つまり、ヨハネの洗礼 せんれい のときから始 はじ まって、わたしたちを離 はな れて天 てん に上 あ げられた日 ひ まで、いつも一 いっしよ 緒 じよ にいた者 もの の中 なか からだれか一 ひとり 人が、わたしたちに加 くわ わって、主 しゅ の復活 ふっかつ の証 しょう 人 にん になるべきです』。

これは、十二 じゅうににん 人の一 ひとり 人 ひと ユダが欠 か けたのでマテ マテ イアを選 えら ぶ時 とき に話 はな された言 ことば 葉 は です。ここでは十二 じゅうににん 人と使徒 しと が

おなじ意味で使われています。

ところが、パウロは自分も使徒の一人であると

主張しています。しかし、パウロは使徒言行録で言わ

れているような使徒の条件にはあいません。つまり、

使徒言行録の著者とパウロとは使徒についての

理解が違っているのです。

パウロはイエスさまと実際に行動を共にしたこと

がないし、イエスさまの死以前に見たことがなかった

のです。使徒言行録では、パウロは使徒たちに承認さ

れて、使徒たちによって派遣されたとみなされています。

す。

ところが、パウロは復活したイエスさまに出会った

事を自ら証言して、自分も使徒たちの中の一番小さ

な者だと主張しています。そして、その選びも神か

ら直接召された者として考えていました。

